

■令和6年1月6日（土）区民説明会 質疑応答要旨■

No.	該当箇所	主な質問	事務局回答
1	進め方	外国人ワークショップを開催したのはよいことだが、イタリア・インドネシア・韓国・タイ出身の国際都市おた大使のみを対象にしている。一方で大田区にはマレーシアなど様々な国の人がおり、ごみ出しや発災時の対応などに不安を抱いている。外国人ワークショップではそのような意見は出たのか。	外国人ワークショップでは基本構想でめざすべき将来像などについて話し合っていたため、発災時の対応などの具体的な意見ではなく、例えば「基本構想では、日本人と外国人で区別するのではなく、同じ区民として扱ってほしい」といったご意見などをいただきました。 今後、基本計画を策定する際にもワークショップの実施を予定しており、そちらではより具体的な施策についての意見が出ることを想定しています。
2	進め方	基本計画の策定はいつ頃を予定しているのか。実施計画策定の予定はあるのか。	基本計画は令和6年度中の策定を予定しており、基本計画とあわせて実施計画の検討も進めていく予定です。
3	全体	予算について、令和6年度予算の割合は基本構想の策定によって変化しているのか。	予算の半分以上は福祉費が占めておりますが、基本構想ではこどもの政策に関する意見も多く、また、健康長寿社会などもありますので、この比率は今後も維持していきたいと考えています。もっとも予算については、予算案としてお示しをし、議会にお諮りをして議決をいただくという流れになっておりますので、その過程で、また議論させていただければと思います。
4	基本理念	基本理念に「多様な個性が輝く」という言葉があるが、基本目標の中でこの多様な個性が輝く要素が足りないと感じる。基本目標のどの箇所に反映されているのか。	基本理念とは基本構想全体を貫く考え方であり、多様性を尊重することはすべての基本目標に通ずるものです。 ですので、基本目標の特定の部分という整理ではなく、全体に係るものという整理を行っております。
5	基本目標	ジェンダー平等については、基本理念の「多様な個性が輝く」で表現されている。基本目標②の2番目のまちの姿にジェンダー平等の要素が含まれていると解釈できるが、具体的に「性別」などのキーワードが含まれていない。そのキーワードがないのはなぜか。	違いというのは性別だけではなく、国籍や価値観などのあらゆるものが含まれるため、あえて抽象的に表現しております。 当初は「誰もが」という表現であらゆる違いを表現しておりましたが、審議会において「高齢者」と「障がい者」に関しては明記すべきとの意見を頂いたため、限られた分量の中でこの2つの要素については明記いたしました。そのため確かに性別についての記載はありませんが、性別という違いも含んだ基本目標であり、SDGs 未来都市に選定されている大田区として、ジェンダー平等に関する施策は基本計画では打ち出し、しっかりと取り組んでまいります。
6	基本目標	基本目標②のフレーズは「文化」に偏っているように見えるが、そうなった過程を教えてください。	基本目標②には、「文化」だけの要素ではなく、「スポーツ」など幅広い内容が含まれています。ただ短いフレーズの中には「文化」以外の要素まで盛り込めなかった経緯があります。 また現基本構想においても「文化」はフレーズに入っていなかったこともあり、明記しなければこの基本目標に「文化」が含まれていることが伝わらない可能性があるという考えのもと、「文化」をフレーズに明記することとしました。 公表する際には、「文化」のみを意識しているのではないことが伝わるように、イラストなども交えながら分かりやすいものにしてまいります。
7	基本構想を実現するために	「持続可能な自治体経営」について、これまで「自治体運営」と表現していたところを、なぜ「経営」と表現をしたのか。	確かにこれまで「運営」と表現してまいりましたが、「運営」という言葉は施設などが滞りなくまわっているといった意味等で使用されることがあるのに対して、「経営」は限られた資源を効率的に配分し、費用対効果なども考える際に使用されることがある言葉です。そういった意識のもと、区では今後、「自治体経営」という言葉を使用していく予定です。
8	基本構想を実現するために	「区民や地域団体、企業との連携・協働」について、これまで「事業者」と記載されていたと認識がある。「事業者」を除き「企業」と表現されると、事業者は除かれたと感じてしまうのではないのか。	「企業」という言葉については審議会でも議論がありましたが、「企業」と協定などを締結して連携している地域も多いことから「企業」という言葉は明示した方がよいという審議会での意見を踏まえ、現在の表現としています。
9	全体	基本構想を推進していくためには職員の能力ややる気の向上を図ることが重要。そのため職員向けにも基本構想の説明会を行い、職員自ら意見をあげていく必要があるのではないのか。	基本構想の策定においては、庁内の検討会などをこれまで何度も開催し、職員の意見も聞いた上で検討を進めてきました。 ご指摘のとおり基本構想を実現するためには、職員全員で取り組んでいく必要がありますので、職員一人ひとりに意識を浸透させ、どのような取組を行っていくのかを今後検討し努力してまいります。

No.	該当箇所	主な質問	事務局回答
10	将来像	現基本構想には「国際都市」のスローガンを掲げているが、新たな基本構想では「国際都市」のワードが消えている。どうして消えてしまったのか理由を知りたい。	平成20年に現大田区基本構想を策定し、以降、大田区は「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」という将来像を掲げ、区民とともに区政を推進してまいりました。大田区は一定程度国際都市となっているという前提に立ち、新たな基本構想には「国際都市」という言葉を使用しておりません。
11	基本目標	こどもが何を求めているかを共有することは大事だが、20年先を考えるのであれば、「こども」という言葉ではなく、「次世代」の方が適切ではないか。	大田区の動向だけでなく、こども家庭庁の発足等、国や都の動きも踏まえ、「こども」という言葉はしっかりと打ち出す必要があるという考えのもと、基本目標等で「こども」を明確に表現しております。もっとも、基本構想はこどもだけのためのものではないため、将来像のフレーズにおいては、「こども」ではなく「未来」という言葉を使用しています。
12	基本目標	これから実現していくべきまちの姿がいずれも現在形で表現されているのはなぜか。	まちの姿は、2040年ごろの理想的な状態として掲げているため、2040年ごろにこんなまちになっているという意図で現在形で表現しております。
13	全体	理想的なまちの姿を掲げるだけでなく、これから何に取り組んでいくのが重要ではないか。	具体的な取組の方向性については、基本構想で描いた将来像や理想的なまちの姿から逆算をするような形で、実施すべき具体的な施策や取組をまとめ、今後基本計画として策定してまいります。
14	基本目標	2040年ごろのまちの姿を示すのであれば、「基本目標」という見出しは分かりづらいのではないか。	この点は審議会でも議論がありましたので、「将来像を実現するためのまちの姿」と括弧書きで補足する形としております。公表の際には将来像や基本目標の関係性を示した図を掲載することで、より分かりやすく表現いたします。
15	基本目標	基本目標②について、「属性の異なる人々」という表現に違和感がある。どうして「人権尊重」の言葉を使用しなかったのか。重要な考えであるため、タイトルの部分にも入れるべきではないか。	基本理念の前文に人権の尊重について記載しており、人権の尊重は基本理念・将来像・基本目標の前提となる、絶対に守るべき当然のことという意図で、あえて前文に位置付けております。
16	基本目標	「こども」という言葉が多く出てくるが教育に関する具体的な項目がないように感じる。今の教育方針がベストであるという考え方のため、入れなかったのか。	教育については、基本目標①の「よりよい未来を創り出す人材」という部分などで表現しています。より具体的な内容は、教育委員会が策定を進めている個別の計画等でもお示します。
17	将来像 基本目標	能登半島の地震があったが、未来を明るくしていくことに焦点を当てるのではなく、災害などにどのように備えていくのかなどがより重要ではないか。リスクに対するメッセージが基本構想内にあってもよいのではないか。	防災対策や防犯対策に対して区民からの関心が高いことは、世論調査の中でも明らかになっております。そのため基本目標④や将来像でも安全・安心を打ち出しております。また、防災対策は区が特に力を入れて取り組まなければならないと認識しておりますが、区だけで行えるものでもないと考えております。基本構想の策定を通じて、職員だけが努力するのではなく、地域のあらゆる方々と一緒になって取り組んでいきたいと考えております。
18	全体	蒲田駅と大森駅の前には風俗等の看板があり、他自治体と比較して大田区はまちづくりが進んでいない。職員には大田区と他自治体とのまちづくりを比較させる機会を設けるなど、基本構想の実現に向けて職員一人ひとりが真剣に取り組んでほしい。	他自治体も意識しながら、職員一人ひとりが自ら考え、魅力的なまちづくりを進めていくためにこの基本構想があります。職員の意識も変えてまいりますので、皆様もどうぞよろしくお願いたします。